

相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165

薫風 吹きぬけて

単調な道も赤と白の花水木が
心はずむ道に変えてくれました。
いちよう 並木の葉もその色濃く

してまっすぐに
伸びています。

どこまでも歩

いていたいような。

その時、フツと

風が吹きぬけて

いきましました。

名句

白牡丹 ほくぼたん

といふといへども紅ほのか

虚子



松尾敏男(薄明)



安達太良山

七十二候
日本の暮らし

。蛙始めて鳴く かがず (5月5日～9日)

冬眠から目覚めていた蛙が鳴き始めて、夏の立ち上がりです。

。蚕起きて桑を食む かいにお くわ は (5月21日～25日)

蚕が桑の葉をさかんに食べて大きくなる頃。



床屋さん

今月の予定

1(月)
10(水)
18(木)
26(金)

12(金) 鶴見カラオケ会
13(土) ラウレア・アラ
16(火) 小林音楽
18(木) ささこいパイ
22(月) つつじ華の会
24(木) 藤美会
25(木) 春さんと仲間たち
27(土) ハーモニカ
※おやつ作り

旅...

茶畑



さあ、窓をあけて
青葉は目の薬

? 読めずか

胡瓜採()
養蚕()
不如帰()

明治時代に建てられた
木造校舎
(茨城県大子町)



旧上岡小学校

ユーモアくらぶ
父が子供に
「こ水を忘れるな」
そう言って頭にのせた。
「どうして、かぶるの」
「もちろん、
ケガの防止(指子)さ」

天声珍語
つばめが、
母の頭をかすめた
気付くはずも
なく花に水を
やっている。
夕方、
その如雨露を
離すと決まって
歩き出す。
母の日課なのだ
濡れた手を腰
に置いて
鎮守様まで歩
くのだ。
道すがら庭を
見たり
立ち話をしたり
母の楽しみなのだ。
さして...
いよいよ母の日だ、
贈り物は何も
ないけれど、
ただ、いっしょに
歩こうと思う。
鎮守様まで
てくてく、てくてく。
ちぎりと離れて
歩くのだ。
二人の間を
つばめがよこ
ぎった。
スズム